



弁護士深草徹の「ここがポイント」

無謀な改憲の試み

深草 徹



“日本国民は、国と郷土を誇りと気概を持って自ら守り、基本的人権を尊重するとともに、和を尊び、家族や社会全体が互いに助け合って国家を形成する。”

これは自民党憲法改正草案の一文です。

この草案は、国防軍と国防審判所の創設、天皇の元首化、基本的人権の制限、自己責任と義務の強調、個人よりも家族・社会・国家の重要視、緊急事態条項の創設など、総じて言えば大日本帝国憲法の復活を目論むもの、と言っても過言ではありません。

その中でも、上記の一文は、生硬な愛国心と郷土愛、家族主義と全体社会重視、和の強調による権利主張の抑制など、この草案の特質をズバリ表現しています。

世界の諸国民との共同で織りなす進歩・発展の成果と、ますます伸長する自由を確保し、不戦の決意と国民主権を確認し、人類普遍の原理としての民主主義、恒久平和と国際主義、平和的生存権の拡張を高く謳いあげている日本国憲法前文と読み比べ、あらためて改憲の無謀な試みを阻止する決意を固めたものです。

(九条の会. ひがしなだ代表世話人、深草憲法問題研究室主宰)

私のひと言

斬られても斬り返さない覚悟

山元 光

「私が殺されなかったのは、無辜（むこ＝罪を犯していない人）を殺さなかった故かも知れんよ。刀でも、ひどく丈夫に結わえて、決して抜けないようにしてあった。人に斬られても、こちらは斬らぬという覚悟だった」（『海舟座談』）。

この文章は、新渡戸稲造の『武士道』の中で引用されている、勝海舟の言葉です。世間では、やられたら、やり返さなければ格好がつかない、といったような風潮を流し、何かと軍備の増強を煽りたてる人がいます。しかし、国家間も、個人の人間の延長です。

したがって、日本が勝海舟のような「斬られても斬り返さない覚悟」を持った、腹の据わった国であれば、諸外国も安心して、付き合える国であると考えらるであろうし、争いを仕掛けることも無くなるのではないのでしょうか。

そして、憲法九条を守ることは、勝海舟の精神を生かすことでもあり、さらなる世界の平和的発展に、日本が貢献することにもつながる、と思います。

(東灘区住吉宮町在住)

憲法9条に国境はない 高遠菜穂子さんに学ぶ

津久井 進

立憲主義と平和を守る西宮の会の第3回学習講演会で10月9日、イラク支援のエイドワーカーである高遠菜穂子さんのお話を聞いた。イラクの実情は、あまりに残酷で耳を塞ぎたくなるような事実の連続だった。そして、その現実を見過ごしてきた罪の意識と、素朴な正義感を目覚めさせるのに十分だった。高遠さんは、「憲法9条を守ればよいというレベルから、次の段階に進める必要がある」と強調する。確かに、日本も程度の差こそあれ、イラクの現状と重なる。第1に“情報鎖国”化しつつあり、「大事なことを知らない」雰囲気蔓延している。第2に他国への憎しみの連鎖を煽られている。第3に被害者の人心が掌握され、利用されている。第4に民主主義の美名の下で、多数者の横暴が強化されている。第5に政府の権力が、国民の制圧に向けられている（沖縄の高江の現実を目を向けよう）。

だからこそ、私たちは、他国の現状に学ばなければならない。そして、新しい9条の価値を見つけ、磨き、育てていく必要がある。



(弁護士 芦屋西宮市民法律事務所)

平和随想

勝訴判決から10年

宗景 正



神戸地裁勝利判決 2006年12月1日

原告の家族や支援者が固唾をのんで見守る中、神戸地裁法廷から飛び出した浜本由弁護士が開いたのは「勝訴」の旗だった。この日から今年はずっと10年だ。日本人の多くが中国残留孤児の存在を知ったのは、訪日調査が始まった1980年代だった。親兄弟、自らのルーツを探す彼らの姿が、テレビのブラウン管に映し出された。その後20年、定年を迎えた彼らは未だ日本語も話せず、経済的にも苦しい状況で、中国残留孤児国家賠償訴訟に踏み切った。「日本の地で日本人として人間らしく生きたい」——この闘いは不十分ながらも新たな支援策への道を開き、多くの人々が彼らの存在を知る契機となり、支援の輪を広げた。この闘いは彼らがお互いに交流を深め、絆を強めることにも繋がった。私はこの機会に、改めてこの意義を噛みしめ、闘いに参加できなかった残留孤児や残留婦人、そして、その家族たちにもこの意義を知っていただき、この社会で生きる糧にしてほしいと思う。

(写真家 尼崎市在住)

憲法の空洞化許さず 暮らしの場から取り戻す

消費者・生活者9条の会は、集団的自衛権の行使容認など、第2次安倍政権の暴走ぶりに危機感を燃やし、「暮らしの場から食い止める」を掲げて2014年11月、東京で発足しました。呼びかけ人は詩人のアーサー・ビナードさん、元国立市長の上原公子さん、日本消費者連盟（日消連）顧問の富山洋子さんなど。「主権者として、憲法を踏みこむものに声をあげ、すべての人々が穏やかに暮らせる社会をつくり上げていく」と、宣言しています。

その消費者・生活者9条の会が今年6月、『孤立し、漂流する社会を生きる私～市民がつくる“憲活”レポート～』と題する本を、七つ森書館から出版しました。日本消費者連盟との共同編集。両者を代表して大野和興さんは「消費者・生活者の活動の根拠は、すべて憲法にあったが、その憲法が足元で空洞化している」と警鐘を鳴らしています。そして、「草の根から憲法を取り戻し、活かす運動の道連れとなっただけいたら」と、購読を呼び掛けています。



本の出版も”草の根から”の一環で

読書感想文

希望のランドセル(1)

小学校4年 小松陽太

(※「ランドセルは海を越えて」の読書感想文が、届けられました。2回に分けて、紹介します。)



日本の子供達を使い終わったランドセルに、文具を入れて、アフガニスタンの子供達に贈る活動が、10年も続いています。ぼくは、こんな活動をしている日本人がいることを、今まで知りませんでした。日本では、新一年生が、ピカピカのランドセルを家族に買ってもらうのが、普通です。だけど、アフガニスタンの子供達は、だれもが、学校へ通うためのカバンや文具をそろえられるわけではありません。だから、贈られたランドセルをもらったアフガニスタンの子供達は、みんな笑顔でうれしそうです。使い終わったボロボロのランドセルなのに、宝物を手に入れたかのような笑顔の写真が、この本にはあふれています。

ぼくの担任の前田先生は以前、ネパールの学校で先生をしていました。その話の時、先生は「君達には、きちんとした学校があつて、先生もいる。教科書やノートも一人一人持つことができる。君達はとてもめぐまれているだから、学校には、きちんと勉強に来るべきだ」と言いました。ぼくは、学校へは勉強するために行っていることは、分かっていた。だけど、ぼく達が「めぐまれていること」は、今まで当たり前だと思っていたので、ぼくの心に強く残りました。(つづく)

きのこ

公庄 れい

八月初め、リビングの前の石楠花の木の、直径2メートルほどに広がった枝先の下に、小さなキノコが数本、生えた。それがどんどん増え、石楠花の木を囲むように、綺麗な半円をつくり、2カ月ほど楽しませてくれた。

今は昔、ベトナム戦争中に、アメリカ公演を終えた狂言師が、テレビで話しているのを、見た記憶がある。演目は“くさびら”。ある家の庭に、見たこともないキノコが生え、縁起が悪い、と山伏を呼んで祈祷をして貰うが、キノコは増えるばかり。キノコの笠をかぶった子方が、ピョンピョンと飛び出してくる愛らしさ、必死で祈祷する山伏と困り顔の家主、言葉が判らなくても楽しめる狂言である。アメリカでは、ベトナム戦争を皮肉っているのか、といった評もあったという。

人間世界は今も、テロだ、報復だ、と喧しいが、キノコの類も含めた菌類は、植物の遺体を瞬時の休みもなく、土に戻し続けている。その土は植物を育て、植物が出す酸素で私たちは生かされている。

キノコに感謝！！

(孫たちの将来を案じるお婆ちゃんの会、和歌山県かつらぎ町在住)

催し案内

あすわか兵庫3周年記念総会・特別憲法カフェ、

日時：11月16日(水) 17:45~18:45

会場：神戸市勤労会館(三宮駅東口から徒歩5分)

講師：内山宙弁護士(小説「未来ダイアリー」著者)

※憲法が改正され、自民党改憲草案が新憲法になってしまった未来の物語

参加費：300円

問合せ：☎078・371・2060(吉江仁子弁護士)

人形劇映画「猫は生きている」上映会

日時：12月3日(土) ①11:00~ ②13:30~

会場：兵庫県保険医協会6階会議室(JR元町駅下車南へ約5分)

参加費：カンパ制(高校生以下無料)

主催：「猫は生きている」神戸上映実行委員会

連絡先：078・393・1801

カンパの郵便振替口座

口座記号 00900-6

番号 0217129

名義 九条の会 ひがしなだ



★ 臨時国会では、TPP承認案が「強行採決」されるか、自衛隊の南スーダンでの新たな任務(駆け付け警護)が付与されるのか、緊迫した状況が続いています。一方新潟知事選では野党統一候補が勝利し、希望も見えてきたように思います。(N)

(T)

★ 9月25日、九条の会全国交流討論集会に参加して、感慨もひとしお。新設された世話人会議メンバー12人が紹介され、フレッシュな顔ぶれに希望が。活躍を期待してやみません。

編集後記